

純真学園大学大学院 ディプロマポリシー

(令和6年度入学生用)

保健医療学研究科は、本学園の建学の精神に則り、多職種連携能力をさらに向上させ、生活者の視点で地域の保健・医療・福祉への諸問題の解決と予防・健康増進及び高い生活の質を目指す社会へ貢献できるための汎用・実践能力と管理・指導能力を持った人材を養成することを目的としている。

ついては、次のように専攻ないし分野において示された幅広い専門の知識や技術とともに高度専門職業人としての資質を身につけ、各専攻に所定の期間在学し、教育と研究の理念に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を取得し、修士論文の審査及び試験に合格して課程を修了した者に対して修士の学位を授与する。

【看護学専攻】

- 生命の尊厳を基盤とした倫理的意思決定能力を備え、エビデンスに基づく全人的・総合的な対象理解を深めるヒューマンヘルスアセスメント能力を修得する。
- 多職種連携を展開する多様な場や機関で、リーダーシップ力やコンサルテーション力を発揮し、高度専門職業人として指導者・管理者の立場で活躍できる能力を修得する。
- 高度化する医療に対応し、他職種との連携・協働をはかるために、自身の専門分野における課題の取り組みと学術研究を通して高めた専門性を発揮して、次世代の看護職の養成を担うと同時に、多様な健康ニーズに対応し、地域社会に貢献できる教育・研究能力を修得する。

【保健衛生学専攻】

ー放射線技術学分野ー

- 「予防・健康増進」と「生活の質の向上」を推進するための幅広い知識・技術と高い専門性を活かして地域の保健医療機関で貢献できる能力を修得する。
- 多職種連携の場においてリーダーシップ力やコンサルテーション力を発揮し、指導者や管理者として活躍できる能力を修得する。
- 放射線技術学分野で、科学的な思考を基に新規技術開発や臨床応用に資することのできる能力を修得する。

ー臨床検査学分野ー

- 「予防・健康増進」と「生活の質の向上」を推進するための幅広い知識・技術と高い専門性を活かして、地域の保健医療福祉における諸課題に対応できる実践的で創造的な能力を修得する。
- 多職種連携の場においてリーダーシップ力やコンサルテーション力を発揮し、指導者や管理者として活躍できる能力を修得する。
- 健康増進から疾病の予防、早期発見、早期治療のための新規技術開発や臨床応用に資することのできる能力を修得する。

ー臨床医工学分野ー

- 多職種連携の場において全人的医療のもとに高度な臨床実践指導能力を修得する。
- 個別化保健医療における「予防・健康増進」と「生活の質の向上」を科学的に探究できる能力を修得する。
- 革新的医療技術創出によって次世代医療機器の開発に資することのできる能力を修得する。

(令和6年5月1日現在)

純真学園大学大学院 カリキュラム・ポリシー

(令和6年度入学生用)

本研究科は、大学院設置の趣旨及び必要性に則り、かつ本学の保健医療学部教育を土台として、大学院における人材養成の目標を実現するための教育課程を編成している。その教育課程は**研究科共通科目**、**専攻共通科目**、**分野専門科目**、**特別研究**から構成される。

本研究科共通の狙いとして、高度専門職業人として種々の実践の場でリーダー、管理者、指導者などの役割を発揮するために、地域で生活する人々の保健医療福祉全般にわたる現状や諸問題を深く理解し、総合的な判断力・調整力を持って看護学、保健衛生学それぞれの分野において高い専門性を発揮できる人材の養成がある。このことを具現化するために、**研究科共通科目**では、自らの職種と他職種の視点から地域の保健医療福祉に係る課題と対策を理解し、併せて多職種連携能力向上のための判断能力、指導力、管理力等を身につけるために必要と考える「多職種連携医療論Ⅰ」「多職種連携医療論Ⅱ」「保健医療技術論」「コンサルテーション論」「健康増進科学」「食品機能学」「医療倫理論」「医療マネジメント論」「医療政策論」「医療統計学」「災害医療論」「地域保健医療論」「保健医療情報論」「実践医療英語」を配置した。これらの科目により、各専門職の多職種連携から見た課題が共通に学べ、地域における保健医療福祉の課題とともに、課題解決のための先端技術や方法論の理解と研究への応用が可能となる。

そして、これらの科目の学びを通して培った相互理解の深まりや視野の広がり、保健医療福祉や地域の人々への貢献における各分野の役割の再認識等を基盤に、さらにその上に看護学専攻・保健衛生学専攻の専門性を追求していくことを目指して、各専攻の専門科目として**専攻共通科目**、**分野専門科目**を設けている。

さらに、各専門分野及び領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための演習科目として**特別研究**を配置した。

【看護学専攻】

看護学専攻では、**専攻共通科目**として、医療施設から暮らしの場をつなぎ、地域の人々の健康増進と生活の質向上に貢献するために必要な調整能力である“コンサルテーション力”、“問題解決能力”を身につけるために、「フィジカルアセスメント特論」「看護心理学」「臨床薬理学特論」「リスクマネジメント」「家族看護特論」「疫学」を配置した。さらに、保健・医療・福祉の場ですでに実践者として活躍する看護者が、高い倫理観を備えた専門医療人を養成していくときに求められる“教育・指導能力”を身につけるために、「看護理論特論」「看護教育学」「組織管理学特論」を配置した。また、確かな知識と洞察力を持ち教育研究活動を展開できる“研究実践能力”を身につけるために、一連の研究プロセスから質的・量的研究における方法論まで学ぶことをねらいとして、「看護研究方法論Ⅰ」「看護研究方法論Ⅱ」を配置した。

この学びの上に、【看護の基盤分野】【臨床実践看護分野】【生活支援看護分野】の3つの分野を置き、看護の専門性を追求していく教育課程とした。

【看護の基盤分野】では、保健医療の動向を把握し看護基礎教育に携わることのできる看護教員・看護研究者の育成、看護職者のキャリア開発・組織マネジメントを展開することができる看護管理者の育成を視野に教育課程を設定した。【臨床実践看護分野】では、臨床の場において対象の発達段階の特徴をとらえ様々な健康課題に対応し、多職種の医療専門職が連携・協働して問題解決にあたるチーム医療のなかで、自らの職種の高度な理論や技術を身につけるだけでなく、適切な判断で医療連携をコーディネートできる高度な実践能力と、医療の現場で課題を探究し、問題解決のための研究を自ら実践できる研究能力を併せ持ってチーム医療を推進することのできる能力をもつ高度専門職業人、看護教育・看護研究者の養成を視野に教育課程を設定した。【生活支援看護分野】では、臨床に限らず、在宅医療や地域保健、疾病予防、地域での暮らしや看取りまで見据えた看護に対応でき、多職種連携を展開する多様な場でリーダーシップ力やコンサルテーション力を発揮できる高度専門職業人、看護教育・看護研究者の養成を視野に教育課程を設定した。

○ 看護の基盤分野

本分野では、組織における人材育成のあり方や組織マネジメント、医療・福祉制度や政策論を多角的に分析し、実践に生かす方法論の修得を強化した。「看護の基盤特論」を概論として位置づけ、具体的な方法論を

学ぶために、「看護技術特論」「看護教育特論」「看護管理特論」を選択科目として配置した。さらに、「看護の基盤演習」を配置することによって段階的に学習し、組織における教育・管理能力を高め、対象となる人・現象、運用のためのシステム、方法等について探求する。加えて、各専門分野の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻分野の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための演習科目「特別研究」を配置した。

○ 臨床実践看護分野

本分野では、様々な発達段階において健康課題をもつ個人や家族が、進歩する治療に対して意思決定でき、選択した治療の効果を十分に発揮できるための高度な看護実践能力を身につけることを強化した。「臨床実践看護特論」を概論として位置づけ、具体的な方法論を学ぶために、「小児看護特論」「成人急性期看護特論」「成人慢性期看護特論」「老年看護特論」を選択科目として配置した。さらに、「臨床実践看護演習」を配置することによって段階的に学習し、職種協働（Interprofessional work：IPW）の実際を学び、科学的根拠に基づく看護実践方法の研究・開発や健康回復・QOLの向上のために対象となる人・現象などについて探究する。加えて、各専門分野の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻分野の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための演習科目「特別研究」を配置した。

○ 生活支援看護分野

本分野では、対象の発達段階、医療・看護ニーズを包括し、調整・指導的役割を果たせるコンサルテーション力、高度な看護実践能力の修得を強化した。「生活支援看護特論」を概論として位置づけ、具体的な方法論を学ぶために、「ウィメンズヘルスケア特論」「メンタルヘルスケア特論」「在宅看護学特論」を選択科目として配置した。さらに「生活支援看護演習」を配置することによって段階的に学習し、現代の社会における女性の健康課題の探究や精神保健における課題の探究、在宅サービスを利用している療養者やその家族への看護実践やチームアプローチを修得する。また、病気や障害を抱えている人のみでなく、地域で暮らしている人々へのヘルスプロモーションを促進するための方法について探求する。加えて、各専門分野の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻分野の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための演習科目「特別研究」を配置した。

【保健衛生学専攻】

保健衛生学専攻では、高度かつ細分化した医療の現場において、自らの職種の専門性を高めると同時に、他職種における学術的な理論や科学的な思考、および専門的医療技術を理解し、多職種連携で保健医療福祉活動を行うことのできる能力を身につけるために、**専攻共通科目**として「保健医療研究方法論Ⅰ」「保健医療研究方法論Ⅱ」、「先端医療技術論」、「保健医療機器論」、「保健医療総合管理学」、「保健医療教育方法論」、「臨床栄養管理」、「病態生理学」、「医学英語論文講読」および「英語プレゼンテーション」を配置した。

これらの学びの上に、放射線技術学分野、臨床検査学分野、臨床医工学分野の各領域において、次のように専門性を追求していく教育課程とした。

－放射線技術学分野－

○ 応用放射線技術学領域

本領域は、放射線計測学における最新の理論と方法論や、様々な放射線の人体に対する影響、及び放射線の取り扱いや放射線に関わる諸問題を教授する分野である「放射線物理学特論」、「放射線物理学演習」、「放射線生物学特論」「放射線生物学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

○ 臨床放射線技術学領域

本領域では、臨床における医用画像機器の原理や医用画像の分析・評価や、放射線治療に関する最新の理論と方法論、及び高度専門職業人としての観点から診療放射線技師が行う業務の問題点を教授する分野である「医用画像解析・情報学特論」、「医用画像解析・情報学演習」、「放射線治療技術学特論」「放射線治療技術学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

－臨床検査学分野－

○ 病因解析検査学領域

本領域は、生体防御に関わる免疫機構や感染防御の解析や、血液や尿といった体液中の生体分子の代謝と疾患との関連性や病態解析を教授する分野である「病因・生体防御検査学特論」、「病因・生体防御検査学演習」、「生体化学検査学特論」、「生体化学検査学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

○ 病態機能検査学領域

本領域は、循環器系・呼吸器系の生体機能解析や、組織・細胞レベルで病態の解析・診断を教授する分野である「生体機能検査学特論」、「生体機能検査学演習」、「病態検査学特論」、「病態検査学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

－臨床医工学分野－

○ 臨床工学領域

本領域は、循環器系、代謝系及び呼吸器系の各種疾患を対象とした医工学治療を教授する分野である「臨床工学特論」、「臨床工学演習」及びレギュラトリーサイエンスを軸に次世代の医療機器開発の課題を探究する「臨床医工学特論」、「臨床医工学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

○ 医療機器学領域

本領域は、予防・診断を目的とした医療機器の操作・保守管理・開発を教授する分野である「予防・診断医療機器学特論」、「予防・診断医療機器学演習」、及び治療・福祉を目的とした医療機器の操作・保守管理・開発を教授する分野である「治療・福祉医療機器学特論」、「治療・福祉医療機器学演習」と、各専門領域の研究課題を深く探求し、発想力、思考力、分析能力を身につけ、専攻領域の発展に資する研究を遂行できる能力を養成するための「特別研究」から構成した。

(令和6年5月1日現在)

純真学園大学大学院 アドミッション・ポリシー

(令和 6 年度入学生用)

純真学園大学は「気品」「知性」「奉仕」という建学の精神に則り、『生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野において社会の要請に応え得る専門的知識・技術・態度を兼ね備えた人材の育成』を目指して、特に地域医療に求められる多職種連携能力とその実践力を兼ね備えた人材の育成を行っている。

純真学園大学大学院では、上記の教育理念を踏まえながら、学校教育法が大学院の目的として「高度の専門性が求められる職業についてそれを担うための深い学識と卓越した能力を培うこと」及び「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめること」の 2 つを掲げていることを念頭に置いて、保健医療福祉分野において看護師・保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士としての専門性をさらに高め、他職種の理論や技術、視点を併せ持ち、多職種連携の場において高い実践力、リーダーシップ力、管理力を身につけた高度専門職業人の養成を目指しており、専攻ないし各分野では次に示すような独自の受け入れ方針を加えている。

【看護学専攻】

- 専門分野の基礎知識を持ち、問題解決のために自律して行動できる人
- 責任感あふれる次世代のリーダーとなるべき高度専門職業人を目指す人
- グローバルな視野で物事を考え地域に貢献しようという意欲のある人

【保健衛生学専攻】

－放射線技術学分野－

- 現代医療が抱える保健・医療・福祉分野の問題解決に意欲のある人
- 多職種連携の実践を通して、全人的医療に貢献したい人
- 放射線技術学に関する高い専門性を身につけ、指導者・管理者を目指す人

－臨床検査学分野－

- 現代医療が抱える保健・医療・福祉分野の問題解決に意欲のある人
- 多職種連携の実践を通して、全人的医療に貢献したい人
- 臨床検査に関する高い専門性を身につけ、指導者・管理者を目指す人

－臨床医工学分野－

- 全人的医療をもとに多職種連携によるチーム医療の中で指導的立場を志す人
- 医療機器の開発や教育に携わることを希望する人
- 革新的医療技術の創出に関心のある人

(令和 6 年 5 月 1 日現在)